信州つばさプロジェクト留学報告書

「STEAM コース」（アメリカ）

信州つばさプロジェクト

「STEAM コース（アメリカ）」

テクノロジーが進化し、ロボットやAI などの社会進出が当たり前になり、テクノロジーの知識や技術は、これからの時代を担っていくために非常に大切な能力のひとつになっている。アメリカの大学や企業・研究機関等への訪問を通して、世界最先端の技術・知識・発想力を学ぶことを目的とする。

・期　日：令和５年 10 月 23 日（月）～30 日（月）
・人　員：生徒 14 名、引率２名
・日程表

日次	期日	地名	時刻	日程
1	10/23 （月）	県内各地 成田空港　発 ボストン　着	午後	○成田空港集合 搭乗・出国手続き、空路にてボストンへ ○ボストン　着
2	10/24 （火）	ボストン滞在	午前 午後	○マサチューセッツ工科大学訪問 ・核融合研究所訪問 ・キャンパスツアー
3	10/25 （水）	ボストン滞在	午前 午後	○ハーバード大学訪問 ・キャンパスツアー、ランチ交流 ・自然史博物館見学 ○マサチューセッツ工科大学訪問 ・エレクトロニクス研究所にて講義
4	10/26 （木）	ボストン滞在	午前 午後	○ボストン美術館見学 ○ハーバード大学訪問 ・メディカルスクール・ブリガム＆ウィメンズ病院訪問
5	10/27 （金）	ボストン滞在	午前 午後	○ベンチャー企業訪問 ・Cambridge Innovation Center ・Pure Lithium
6	10/28 （土）	ボストン滞在	終日	○ホストファミリーとの交流 ○夕食会
7	10/29 （日）	ボストン　発	午前	○空港へ移動、ボストン発
8	10/30 （月）	成田空港　着	午後	○成田空港着、解散

◆事前学習：令和５年９月 16 日、10 月７日、10 月 15 日

長野西高校
2年
南雲（なぐも）　葵（あおい）

ボストンと活気のある人々

1 参加前の自分と、帰国後の自分の変化について

このアメリカの研修は 10 月に行われたが、私は 3 月に学校の語学研修でオーストラリアに行ったことがあった。参加前は、オーストラリアでうまくいかなかったこと、英語力やそもそも全ての日程に健康に参加できなかったという後悔があった。それを今回の研修でリベンジしたいという思いが強かった。私が今回のこの研修で知ったことは、たくさんの人と会話する、関わるという点で最も重要なのは、やる気ということだ。私は個人的に以前よりは英語力も上がり、円滑にコミュニケーションが取れると思っていたが、渡航前の準備が足りなかったということもあり、以前と対して変わらなかったように思う。そこに関しては後悔と反省がある。やりたいことが明確である人、明確にある人は、英語力は二の次であり、必要であるなら、己の好きなものを突き詰めていくうちに自然と身につくものだ、ということを同じ高校生の仲間やボストンで出会った方々から学んだ。それを受けて私は、これからの自分の興味を持つものや、心のそこから挑戦したいことを行いたいと思った。

2 アメリカ（ボストン）に対する理解や印象について

アメリカは日本に比べて治安が悪いというイメージだったが、実際行ってみたら地下鉄に乗ったときに子供だけで電車に乗っており、とても治安のいい地方という印象だった。とても景色がきれいで、特にケンブリッジのハーバード大学までの道のりがどこを切り取っても絵になる美しい風景だった。私達がボストンを訪れていたときは、少し曇り空も見られたとは言え毎日晴れで清々しい天気で紅葉も見られ、自然の中にたくさんの IT 会社が立ち並んでいたのも興味深かった。また、歴史ある街ということで、古い建造物が多かったように思う。

3 大学・企業訪問やホストファミリーとの交流等から学んだこと

今回の研修では MIT やハーバード大学、CIC や Pure Lithium に行かせてもらったのだが、そこでは活発でモチベーションが高い人が多い。やる気があり、目的がはっきりしていて、皆目がキラキラしていた。また、ラボの仲間のことを自慢気に話したり、実際仲間同士で冗談を交わして笑い合ったりとても仲が良いのがわかった。仲間と切磋琢磨し協力することも研究の上で大切なことなのかもしれない。ホストファミリーは温かく素敵な人で、私が拙い英語で喋ったときも優しく聞いてくれて、アメリカやボストンのことに限らず自分の出身地でのことなどたくさんのことを話してくれた。もう一組のホストファミリーが親戚で、一緒に行動することが多かった。明るい家族で、優しく受け入れてくださりとても楽しい時間を過ごした。

4 今の目標や今後の進路について

今回のこの研修で、世界の最先端を行く人を直接見て、今まで見たことのないものを見たり、経験したりした。今は将来なりたい職業が明確に決まっているわけではないが、なにかを生み出す職業に就きたいと思っている。今回の研修を通して、もっと広い世界を見てみたいと思い、この日本の狭い常識の中だけで生きていくのではなく、いつか何らかの形で海外に出たいと思った。また、これから自分のやりたいことを探すために今は少しでも自分が興味を持つことを深く掘り下げていき、最もやりたいことを決めたい。そして、今度は自分が自分のことを後輩に語れるように様々な新しいことに挑戦したいと思う。

5 帰国後の活動

学校で、自分の言葉で、留学で学んだこと、楽しかったこと、その意義、感動を受けたことについて話すために、同級生と後輩にむけてプレゼンテーションを行った。自分の言葉で、写真を使って印象に残ったことや、行って感じたこと、自分の考え方がどう変わったかを話した。また、「note」というツールを使ってブログのように文章を公開することを考えている。

Museum Fine Arts of Boston の前で

Pure Lithium で働く日本人に質問

坂城高校
1年
加藤（かとう）　美優（みゆ）

アメリカで得たもの

1 参加前の自分と、帰国後の自分の変化について

参加前の私は外国を身近に感じる機会がなく、どのような世界があるのかよくわかりませんでした。また、外国は日本より治安が悪いと聞いており、海外に行ったことはありませんでした。しかし、つばさプロジェクトについて学校の先生からお話を伺った際、「身近な環境から一歩踏み出し、日本とは異なる文化やアメリカの人々の価値観を間近で触れてみたい。さらに、自分の価値観や世界を広げてみたい。」と思いました。そこで勇気を出して本企画に応募してみた結果、参加する機会を得ることができました。もう二度とない経験をさせていただくからには、その国の文化やそこに住む人々の価値観を学んでこようと決意しました。日本と全く違うアメリカでの生活を通して、私は食文化や交通機関など未知の環境にも適応できるようになったと感じています。そして、人々の考え方や価値観に触れることで自分の中にあった常識が崩れ、世界を広げられたと思います。

2 アメリカ（ボストン）に対する理解や印象について

アメリカのボストンに行く前までは、事前学習で聞いていたことや、自分で調べた基礎的な知識しかなく、あまりボストンについて理解できていない状態でした。現地に到着すると、まず匂いが違う。そして、目に入るもの全てが大きかったです。また、街には銅像がたくさんあったり、壁や塀にアートが描かれていたりしました。あらゆる場所で芸術や歴史、文化などを感じ、とても驚きました。加えて、さまざまな人種の方がいて、服装も宗教や民族によって異なっていました。そんな中であまり差別らしきこともなく、みんなお互いの宗教や文化などを理解していることが当たり前になっていて、とてもすごいと思いました。これらの経験により、私のアメリカのボストンに対する理解はとても深まり、元の印象がいい意味で壊れ、もっと知りたいと思えました。

3 大学・企業訪問やホストファミリーとの交流等から学んだこと

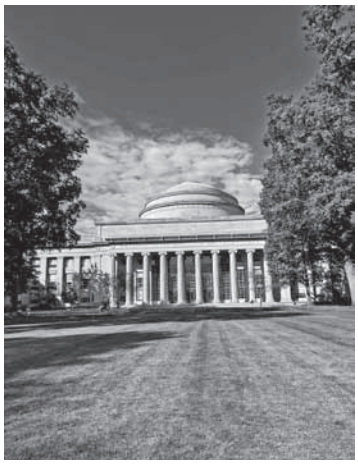
私が大学や企業訪問でまず感じたことは、アメリカはこんなに進んでいるんだという驚きです。大学は日本より敷地が広く、キャンパスツアーの時には大学内なのに街を回っているようなとても不思議な気持ちになりました。そして、今アメリカで働いている日本人の方の話をお聞きし、日本人から見たアメリカもよく分かりました。また、ホストファミリーと会話をする時、私は英語が苦手でうまく伝わらなかったり、何を言っているのか分からなくて何度も聞き返してしまったりしたこともありました。しかし、私が分かるまで何度も繰り返し教えてくれたのがとても嬉しかったです。さらに、買い物をした際には店員さんが日本語を話してくれることがありました。相手の文化や言語に積極的に触れていく姿にとても幸せな気持ちになりました。苦手でも相手のことを理解しようとし、簡単な英語でたくさん話しかけることが重要だと感じました。

4 今の目標や今後の進路について

私は今回の研修を通して、もっと海外の文化についてたくさん知りたいと思いました。なぜなら、日本と違いすぎる文化があることをこの研修の中でたくさん体験したからです。しかし、異文化を理解するには、今以上に語学力を身につける必要があると思います。現地で出会った方と交流をする際、言葉が通じず、自分が伝えたいことを言葉にできないという悔しい思いをしました。異文化を知るにはまずは自分の思いを言葉にして伝える能力がとても大切だと実感しました。そのため、今後は語学の取得に力を入れていきたいです。また、異文化を理解するために異文化と触れ合える機会を積極的に作っていきたいと考えています。

5 帰国後の活動

学校では留学の報告をする機会をいただいており、自分が経験したことから学んだことや、ボストンの魅力を発表していきたいと思っています。今後は、SNS などでこの県企画のプロジェクトのことや、経験して良かったことなどを発信していき、長野県の留学したい高校生や海外に興味がある方たちにこのような企画があるということを広めていきたいです。


マサチューセッツ工科大学

ハーバード大学生との写真

上田高校
1年
工藤（くどう）　絢音（あやね）

本場の英語　アメリカのコミュニケーション

1 参加前の自分と、帰国後の自分の変化について

参加前の自分は、相手の反応を気にしてばかりだったけれど、自分を恐れずに表現することを学びました。ネイティブの英語は、文法は当たり前に身につけた上で、身振り手振りなどの表現を通して、相手とコミュニケーションを取っていることがわかりました。そして、本当に返事をしないと伝わらないことと、自分の意見をちゃんと表現できる人を評価してくれることを知りました。帰国後は相手の意見に合わせるのも大切だけど、自分の意見も正しく伝えられるようになったと思います。アメリカでコミュニケーションの楽しさを学べたので、高校でもいろんな人と会話をし、人と人との縁を大切にしていきたいです。

2 アメリカ（ボストン）に対する理解や印象について

アメリカは最初、銃社会なので少し怖いイメージがありました。けれど電車で寝ていたら、アメリカの電車で寝るのは危ないよなどと教えている人がいたり、明るくおもしろい話を聞かせてくれる人が多く、アメリカはとても優しく明るい人ばかりの国だなと実際にアメリカにきて思いました。大麻の所持が法律で許可されていることからも、過去にとらわれずに、これからのことのために自分の意見をしっかり表現して、自分たちの国をより良くしていこうというアメリカの方々の気持ちがわかるようになりました。なにより自分の国や大学、家族を愛していて、愛に溢れた国だと思います。

3 大学・企業訪問やホストファミリーとの交流等から学んだこと

１、２で書いたとおり、アメリカは自分の身の回りのものや事を愛する力を持っていて、自分の意見もしっかり伝えることができる人の多い国だと思いました。大学も入った者勝ちのような考えをしている人が多い日本の大学とは違い、すべてが生徒主体で学校を盛り上げていこうという気持ちが学校見学を通して感じられました。ホストファミリーとの時間の際に、遠くに住んでいる家族の一人にバースデイビデオを送ることになった際に、ダンスや歌、感謝の言葉などで祝福をしていたことがとても記憶に残っています。そこから私も、少し父に冷たいところがあるかもしれないと思い、感謝の気持ちは恥じずに伝えるべきだと学びました。

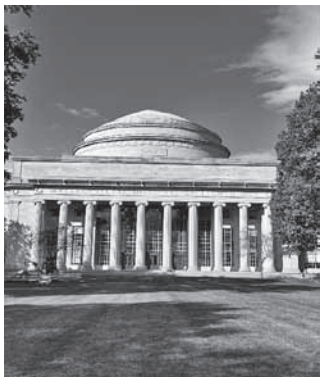
4 今の目標や今後の進路について

まだ夢が決まっていない中、人生経験として行ったアメリカでしたが、少し日本で生きづらさを感じていることがあったので、こんな世界があるのかと知ることができて、将来アメリカに住むのもいいなと選択肢が増えました。バイオミメティクスの研究者の方々のプレゼンテーションを聞いた際に、生物や化学の研究などを思いの外興味深く感じたので、研究者などのことについてこれから視野に入れて、調べていきたいと思いました。ピュアリチウムという会社に訪問させていただいた際に、素晴らしい学歴をお持ちの日本の方々のお話を聞きました。学生時代の勉強量を聞いたとき衝撃でした。だから私ももっと頑張ろうと思いました。時間の効率化のお話も聞けたので、まずは高校のテストで順位を上げることを頑張っていきたいです。

5 帰国後の活動

もうすでに実施している、留学の細かいところや留学へ行きたいと思っている人が気になっていくことをインスタグラムのストーリーや投稿などで発信していくことが周りに伝えるいい活動になると思っています。さらに、質問箱などを受け付けてそれに答えることや、このインスタグラムを周りの友達に教えることをすることで留学に興味を持ってもらうきっかけができると思いました。

アメリカの朝食


MIT の歴史ある建物

上田高校
1年
中山（なかやま）　由理子（ゆりこ）

わたしのアメリカ研修

1 参加前の自分と、帰国後の自分の変化について

参加前の私はアメリカに対して漠然とした想像しかしていませんでした。アメリカに行って英語がちゃんと話せるのか、ホストファミリーの人とちゃんと話せるか不安でした。ですが、実際にアメリカに行ってみて、そういう心配よりも、とりあえずやってみるしかないのだと気が付きました。１週間という短い間でしたが、行ったことで英語を勉強するモチベーションになったり、将来海外で働いてみたいと思うようになりました。大きな変化はありませんが、帰国後は機会があれば積極的に発言するなど、自発的な行動ができるようになったと感じています。今後、またアメリカなど海外に行ったり、外国の人と交流する機会があれば積極的に参加していきたいと思っています。

2 アメリカ（ボストン）に対する理解や印象について

ボストンというのはすごく活気あふれる都市なのだと思いました。今回の研修でも行ったMITやハーバードなど大学があり、とても若い人が多いと感じました。治安も良く、建物の外観もきれいでとても素敵な街だと思いました。私はアメリカでは時刻表通りに電車が来ないと思い込んでいましたが、ボストンは都市なので時刻表が必要ない頻度で電車が来て嬉しかったです。慣れない言語で、買い物だけでも緊張していましたが、優しい人もいて案外なんとかなるものだと根拠のない自信を得ることができました。短い間でしたが、私もこんな街に住みたいと思えるような素敵な街でした。

3 大学・企業訪問やホストファミリーとの交流等から学んだこと

大学や企業先では、とにかくすごいと思うことの連続でした。現地の方もそうですが、元々日本に住んでいた方のお話を聞くことができて良かったと思っています。すごい人というのは努力するのが当たり前なんだと、とてもいい影響を受けたと思います。MITとハーバードが世界トップの大学、ということもあると思いますが、アメリカの大学はとてもお金を持っていて、今の時代に必要な自分から行動できるようなすごい人が集まっているのだと感じました。

ホストファミリー先はベネズエラ出身で一人暮らしの年配の女性の方でした。わたしはあまり英語ができないので、２人一組で本当に良かったと思いました。たくさん話した方ではないと思いますが、拙い英語でもなんとかコミュニケーションを取ることができて良かったです。

4 今の目標や今後の進路について

私はアメリカに行って、自分があまり質問できないことに気が付きました。なので、小さい目標としては、たくさん質問できる人になりたいと思っています。アメリカ研修の大学や企業についていってくださった日本人の方が、いろんな人と知り合いで、いろんな質問をされていたのが印象的でした。私は、自分は文系だからと思って自分の興味を狭めてしまっていたのかもしれないと思い、帰国後は幅広い分野に興味を持つようにしています。

将来は、大学で交換留学をしてアメリカにまた行きたいと思っています。また、海外に行くことで視野が広がることがわかったので、将来ジャーナリストとしてもアメリカに行きたい、という夢ができました。

5 帰国後の活動

来年の４月頃にアカデミックプレゼンテーションという、つばさプロジェクトの良さを紹介する発表を学校ですることになっています。GSの活動としてもなにかできたらいいな、と思っていましたが、難しいので今後つばさプロジェクトの良さを伝えられるような機会があれば、伝えていきたいと思っています。

ボストン美術館で！

MITの全体写真

上田染谷丘高校
1年
安藤（あんどう）　りほ（りほ）

自分の手で掴んだチャンス

1 参加前の自分と、帰国後の自分の変化について

このプロジェクトに参加する前と帰国後の自分の変化は大きく分けて二つあります。一つ目、参加前は自分の将来の夢が決まっていませんでした。そして帰国後、結果的には自分の将来の夢が決まらないことに変化はありませんでした。しかし、このプロジェクトに参加したことで自分がなりたいと考えるものが増えました。また、将来の夢が決まらないこと、それが不安なことではなく、ワクワクすることに自分の中で変わりました。二つ目、参加前は「自分の将来の可能性を広げたい、もっと成長したい」というような思いを持っていたにもかかわらず一歩を踏み出すのにたくさんの勇気が必要でした。決してその勇気が無駄だったわけではありません。しかし、帰国後、私は挑戦することの素晴らしさを改めて知りました。なので私は帰国してから「もっといろんなことにチャレンジしたい、これからは自分で積極的にチャンスを掴んでいこう」というマインドに変わりました。これらの変化は、私がこれから生きていくうえでとても大切で大きな力になってくれるはずです。

2 アメリカ（ボストン）に対する理解や印象について

ボストンは、山だらけの長野県と比べて山がないところでした。また、場所にもよりますが高い建物などがたくさんあるところでも、ちょうど紅葉している木々や広い公園などがあり「これぞ自然と人工物の調和」を感じることができました。どこで写真を撮っても全てが絵のようで綺麗でした。アメリカに出発する前、「日本とアメリカは全然違って絶対カルチャーショックがあるだろう」と勝手に不安に思っていました。ですが実際に現地で生活をしてみて、カルチャーショックはいくつもありましたが、それら全てが自分にとっていい刺激になり、すごく楽しかったです。また、私が感じたのは、みんな優しい心を持っているということです。海外に限らず、自分が初めてきた場所にいるとき、人は皆緊張するし、不安になると思います。そんなときに人々の優しさを経験するとやはり人は安心できるのです。それを私は身をもって経験できました。日本ではありきたりなことかもしれませんが、優しく話しかけてくれたり、公共の場での些細な気遣いなどを日本以外の国で経験できたことが私はすごく嬉しかったです。

3 大学・企業訪問やホストファミリーとの交流等から学んだこと

アメリカ研修中、さまざまな場所を訪れましたが、そこで出会った人々にはある共通点がありました。それは、そこにいた人々のうち、その人それぞれが行っている研究や学び、行動などに対する熱い思い・情熱を必ず持っているというところでした。そこに私は感動し、心を打たれました。「自分にしかできないこと」「自分が人生で成し遂げなければならないこと」を、その人それぞれが見つけて努力している姿が本当にかっこよかったです。自分の将来の夢に「この人たちみたいになりたい！」という夢がまた一つ増えました。また、ホームステイは初めてでとても緊張しましたが、そんな私をホストファミリーはあたたかく迎えてくださりました。短い間でしたが親切にしてくださったこと、本当に感謝しています。最後のファミリーデイで一緒にボストンを満喫できたことは一生の思い出です。

4 今の目標や今後の進路について

今の目標は、自分の英語力をさらに向上させることです。実際にアメリカに行ってみて、自分はもっと話したいことがあるけれど、思うように英語が出てこなくて伝えられない悔しさを経験しました。そんな中でも、自分が今までに学んできた英語のスキルで現地の人となんとか会話ができた時の嬉しさは本当に忘れられないものです。これら二つの経験をバネにして頑張りたいです。今後の進路については、まだ悩み中です。ですが、楽しく悩んでいます。将来自分がなりたいと思う姿はたくさんあるので、そこから逆算をして「私は何者なのか」「自分が絶対に曲げたくないもの」を見つけてきます。また、「チャレンジするなら今」をモットーにこれからも私は挑戦し続けます。

KARP LAB にてバイオミメティクスのプレゼンテーション

5 帰国後の活動

自分が所属している ESS 班内やクラス内、全校に向けてプレゼンテーションを行いたいと考えています。そして、12 月 16 日に塩尻で行われる「長野県高校生探Qフェスティバル」に参加して、アメリカでの研修を広く発信できたらと考えています。過去の私のように、少しでもプロジェクトに興味があったり、興味はあるが勇気が出ないという方の背中を押せたらと思います。

ホームステイ・ファミリーデイ

諏訪清陵高校
1年
上間（うえま）　直輝（なおき）

つばさプロジェクトで学んだこと、そして伝えたいこと

1 参加前の自分と、帰国後の自分の変化について

つばさプロジェクトで一番印象的だったのが、アメリカで学んだり働いたりしている方たちから体験談を聞いたことでした。話を聞かせてもらい、私の進路に対する考え方が大きく変わりました。例えば、ボストンのスタートアップ企業でインターンをしている東京大学の大学院生の方は、友人達が大学で学んだことを生かさない職に就職している現状を、それでいいのかと提起していました。その方は、日本の友人たちの生き方に疑問を感じ、大学での学びを生かしたいという理由から渡米したと教えてくれました。

私はこの話を聞き、自分は何のために大学に行くのか、深く考えさせられました。私は、大学進学に際して、大学の知名度や偏差値でなんとなく選択しようとしていました。しかし、ボストンでの話を聞いて、ただ「良い大学に行く」だけではなく、なぜその大学に行く必要があるのか、将来を見据えて進路を決めることが大切だと気づきました。

2 アメリカ（ボストン）に対する理解や印象について

ボストンの滞在で印象的だったことは３つあります。

まず、広大な風景です。ボストンは家と家の間が離れ、山がないため、太陽が地平線に沈む美しい光景が見えました。これは、日本では得られない貴重な経験でした。２つ目は、水を気軽に入手できないことです。ボストンでは水道水を直接飲めず、自販機も少ないため、初日はペットボトルが手に入らず、のどが渇いて大変でした。日本のレストランなどでは無料で水が飲めますが、ボストンでは有料で買う必要があり、驚きました。最後に、電車の到着が正確ではなかったことです。日本では時刻表に決められたとおりに電車が来ますが、ボストンでは遅れることが当たり前でした。そのため、掲示板にはあと何分で電車が来るかが示されるだけでした。また、地下鉄内の空気がよどんでおり、においもあり、あまりきれいではないと感じました。

これらの経験から、日頃日本で体験している当たり前は、当たり前のことではないのだと実感しました。

3 大学・企業訪問やホストファミリーとの交流等から学んだこと

大学・企業訪問を通じて学んだことは、１に書いたとおりです。

アメリカでのホストファミリーとの交流では、英語力やコミュニケーション力をまだまだ身に着ける必要があると気づかされました。ホストファミリーとの交流では、初日は、人見知りもあって言葉に詰まりました。日が経つごとに慣れ、英語の聞き取りもスムーズになってきました。ただ、自分が話す際は単語だけになりがちで、会話がつまりやすかったです。ホストファミリーは親身に話をしてくれましたが、やはり、継続的な会話は難しかったです。英語力のなさを感じ、これからもっと学びたいと思いました。

4 今の目標や今後の進路について

１にも書いたとおり、ボストンでの体験談を聞いて、私は自分の進路選択に対する考え方を変える必要があるとわかりました。そこで、自分は何になりたいのか、将来についていく前よりも深く考えるようになりました。

まだ、明確な目標が見えているわけではありませんが、将来社会に出て働くことを考えると、働くための力をつける必要があると考えるようになりました。そこで、高校生の立場でもできるボランティア活動などを行なって、将来社会に出るために、どんな勉強をする必要があるのか見つける必要があると感じています。このような学校だけでは得られない様々な経験をすることによって、自分の進みたい道を探したい。これが今の目標です。

5 帰国後の活動

このプログラムに参加する高校生を増やすためには、中学時代から、もっと PR することが大切だと考えています。なぜなら、今回参加にあたり、複数の友人を誘ってみましたが、つばさプロジェクトを知らない人が多く、興味も持ってくれなかったからです。

私は、中高一貫校に在籍しています。清陵中学生は高校受験がないため、他の中学生よりゆとりがあります。そこで中学３年生に、高校に行ったら、つばさプロジェクトで海外に行ける機会があることを直接伝えたいと考えました。例えば、英語の授業などで、自分が体験したことを話したり、質問を受けるなどの機会を考えています。今回つばさプロジェクトに参加した同じ学校の先輩と一緒に活動することで、中学生のうちに海外に行ってみたいと思える気持ちを育てることができれば、つばさプロジェクトに参加したい子が増えるのではないかと考えています。

MIT にて

ホストファミリー宅にて

諏訪清陵高校
２年
神林（かんばやし）　聖來（せいら）

初めての留学

1 参加前の自分と、帰国後の自分の変化について

参加前は、ただ海外に行ってみたいというふんわりとした気持ちで応募しました。ですが、研修が始まると毎日がとても充実していて、自分が憧れている海外で活躍している方のお話や研究を伺うことが出来て毎日が発見の連続でした。私は高校１年生の後半辺りで自分が将来何をしたいのか、なんのために勉強しているのか見失い、勉強に対しての意欲が下がってしまっていました。そんな時にアメリカに行くことは不安でしたが、目をきらきらさせて自身の研究について語ってくれる研究者の皆さんを見ていて改めて世界を相手にできるような人間になりたい、とはっきりと感じ、自分の夢の原点を再び思い出しました。自分の中で目標が出来たことにより、今までよりも意欲的に自分の夢へと必要なことに対して行動するようになり、アメリカに行ったことで自信がついたと実感しています。

2 アメリカ（ボストン）に対する理解や印象について

アメリカは多国籍で、銃の使用が認められていることからあまり治安が良くないと思っていました。事前学習の際にボストンは東京と同じくらいの事件発生率だと聞いてとても驚きました。私達が滞在中実際に車で２時間程の隣のルイストン州で銃乱射事件が起きてとても恐怖を感じたのを今でも覚えています。世界的に見てアメリカの銃に対する法律はかなり問題として取り上げられており、日本でアメリカの銃乱射事件が起こったとニュースを聞くことは少なくありませんが、実際に近くで起きた時どうすればいいのか、自分が今まで知ったような気持ちでいましたが実際は他国だからとどこか他人事に思っていたことを改めて実感しました。ニュースを見て心を痛めるだけではなく、世界情勢の解決を考え、実際に行動に移すことがこれからの若い人に求められているのではないかとアメリカで感じました。

3 大学・企業訪問やホストファミリーとの交流等から学んだこと

沢山の大学、企業を訪問し色々なバックグラウンドを持つ方に研究についてお話を伺いましたが、自分の中で１番心に残ったのは Pure Lithium の小野田さんのお話でした。ホームステイ中、ホームマザーと思ったように上手く意思疎通が出来なかったり研究者さんのお話が理解出来なかった時があり、英語の自信が少し喪失してる時に小野田さんとグループワークを通してお話しする機会があり、最初は全く小野田さんも英語が話せなかったと言っていたので言語の壁を感じる時はどのように乗り越えたか質問をしました。その時小野田さんは「言語を壁だと思わないこと」が大事だと教えてくださいました。私の中でその言葉がとても心に響いて、帰国後もずっと大事にしています。そして小野田さんは「最初自分が世界を変えられるなんて思っていなかった。でも今は自分が世界を変えようと思って研究をしている」と話してくれ、誰にも世界を変えられる可能性があると私達に語りかけてくれました。なんだか自分にも世界を変えられるような気がする、と帰り道皆で話して帰ったのを覚えています。自分の未来が見えない状態で苦しんでいた私にとって希望を持たせてくれた小野田さんのお話は自分の心にとても残っていて、私の事を前向きにさせてくれました。

4 今の目標や今後の進路について

今、私の目標は海外で活躍出来る人間になることです。今回アメリカに来てさらに海外で働いてみたいと強く思いました。帰国後、更に積極的に行動力がついた気がするのでそれをそのまま継続させていきたいです。元々自分に自信が全くといっていいほどなかったのですが、様々な方のお話を聞いたことで今からならなんにでもなれてなんでも出来ると背中を押してもらった気がして自分が前々から挑戦しようと思っていた事に挑戦しようと思っています。自分に向いているのかは分かりませんが間違いを恐れずにアメリカに行って変わったことを大事にしながら自分がしたいと思ったことに対して全力で挑戦していけるように、自分がなりたいと感じたアメリカで出会った研究者さん達に少しでも近づけるように努力していきたいと思います。

最高の仲間達

5 帰国後の活動

アメリカに行って自分の中で世界が 180°変わったと実感しているので、今度行われる事後報告会では自分がどのように変わったのか、留学を前にしている人に伝えたいし、留学を迷っている人の背中を押せるような発信をしていきたいです。そして自分の行動からアメリカに行って変わったなと思って貰えるように普段からこの研修で学んだ積極的な姿勢を崩さずに自分の中で立てた目標を達成できるように自分自身も頑張っていきたいと思います。

Pure Lithium

伊那北高校
2年
原（はら）　亜希（あき）

一流の研究者とは

1 参加前の自分と、帰国後の自分の変化について

私は、先を見通しながら日々の生活を送れるようになったと思います。プログラムに参加し、アメリカの一流の研究者の研究に対する熱意が最も印象に残りました。彼らと話す中で、子供のころから自分の追求したいことに惜しみない情熱を注ぎつづけているから、今実を結んでいるということがわかりました。思い返せば、参加する前は、将来海外で働いてみたいという漠然な気持ちがあるだけでした。将来の目標はあるけれど、達成するための細かな道のりは、見えていない状態でした。なりたい自分になるには、熱い気持ち、そして行動が大切ということをプログラムで深く学びました。帰国後、「今日の行動は目標に近づけたのか」毎日自分に問いています。後悔のない人生を送れるように、ゆるみない生活を送っていきたいです。

2 アメリカ（ボストン）に対する理解や印象について

現地の方々は社交的だと思いました。当初は、アメリカは日本と比べ、自己主張が大切な国なため、少し怖い国というイメージを持っていました。しかし、実際はイメージと真逆でした。電車に乗っていると気さくに話しかけてくれたり、転びそうになると、見知らぬ人が心配してくれたり、とても優しい印象を持ちました。日本よりずっとオープンな国でした。これは多民族国家な面が関係しているのではないかと思いました。特にボストンはさまざまな人種の方がいました。背景も、信仰している宗教も異なる社会では、日本と違い、他人の気持ちを推し量ることも難しいでしょう。その分他人への理解を深めようと社交的になるのではないかと感じました。日本でもこのような一面が増えたら嬉しいなと思います。

3 大学・企業訪問やホストファミリーとの交流等から学んだこと

大学・企業訪問では、海外で研究するための行動力について学びました。日本を超えてほかの国で研究することが決してすべてではありません。しかし、アメリカの方が研究環境が整っていることは感じていたし、訪問して、より切に感じました。現地の日本人研究者にアメリカで働くための秘訣を聞くと、「やりたいと思ったら、怖気づかずに行動を起こす」とありました。ほとんどの日本人は、シャイで、現状にとどまることを選択するようです。しかし、私はそれを望んでいません。それならば、周りに流されず、自分の意志を貫いて今回お会いした研究者のようになりたいと心に刻みました。

ホストファミリーとの交流では、新しいことを吸収する大切さを学びました。ホームステイ初日は、英語が伝わらなかったらどうしようと不安で、あまり会話をしていない状況でした。しかし、いったん勇気を出して話しかけてみると、相手への理解も深まり、会話の中で、もっと気になる！といった、新たな発見もありました。これは異なる価値観を学ぶという自分自身の成長につながると思いました。

4 今の目標や今後の進路について

私の将来の目標は、感染症の疫学者になることです。具体的には、危険な感染症が勃発した際に現地で感染症の治療をしたり、流行を防いだりする研究者です。そのために大学で医学と公衆衛生を学びたいと思っています。しかし、日本は感染症研究において、遅れをとっています。ゆえに在学中に留学をして、欧米諸国の最先端の研究ができる場所に足を踏み入れたいと思っています。今回の留学では一流の研究者と出会い、海外で働くための極意を学びました。彼らのように常に熱い気持ちで、日々の生活を過ごし、意志を貫いたまっすぐとした人間になりたいと思います。

5 帰国後の活動

全校生徒に今回の活動を紹介することが決定しています。留学に今興味がない人にも良さがわかってもらえるように留学を通した自分自身の変化について特に伝えていきたいと思います。また、留学に興味がある人には、手段や体験をもっと伝えて、たくさんの学生が留学に行ける社会を作っていきたいです。

MIT 日本人研究者と

ホストファミリーと

伊那北高校
2年
川手（かわて）　友也（ともや）

自分らしさを見つける学び

1 参加前の自分と、帰国後の自分の変化について

アメリカに留学する前は、新しい環境や文化に不安もありましたが、留学を通じて「挑戦する勇気」を身につけることができました。初めての留学で緊張しましたが、異なる背景を持つ人々と交流し、コミュニケーションを経験することで、私の柔軟性と対応力が向上しました。留学中は言葉の壁や社会習慣の違いに戸惑うこともありましたが、失敗を恐れずに自分から行動することができました。新しい環境でも自分をもっと知り、受け入れる力を身につけることの大切さを学びました。留学を振り返ってみると、私の最大の成果は、「挑戦する勇気」を養うことができたことだと思います。新しい文化に浸ることで、自分の限界に挑戦し、自信を得ることができました。これらの経験から得た勇気は、今後の人生において積極的に挑戦する原動力となっています。留学中に得た知識や経験は私の人生の大切な宝物となりました。

2 アメリカ（ボストン）に対する理解や印象について

留学前、ボストンは歴史的建造物や博物館が印象的で、アカデミックな雰囲気が漂う街という印象を持っていました。しかし、ボストン滞在中にその多様性と国際的な雰囲気に驚きました。異文化が融合し、自由な雰囲気が漂っていました。また、大学に近いことで多くの学術的な刺激が得られるだけでなく、多種多様なイベントやアクティビティも提供されるということが素晴らしい環境になっている要因だと感じました。ボストンは歴史と現代性が見事に融合した街で、留学後は知識と独自の想像性の宝庫という印象が残りました。

3 大学・企業訪問やホストファミリーとの交流等から学んだこと

米国への留学では、ハーバード大学やマサチューセッツ工科大学などの優れた環境で学ぶと同時に、世界のリーダーや優れた専門家に触れる機会が得られました。これらの大学では、リーダーシップと問題解決スキルを学びながらユニークなアイデアと研究者の熱意を大切にしていることを感じました。企業訪問を通じて、私はチームワークの重要性を理解し、実際の国際的なプロジェクトに取り組む方法について学びました。また、ホストファミリーとの交流を通じて、アメリカの文化や価値観に深く入り込み、違った視点から人間関係を築く方法を学ぶことができました。わたしは、ホストマザーとの会話で、「自信を得るためには自分の信念を貫き小さなことでも挑戦をして成功することが大切だ」と教えてもらったことが印象に残っています。

4 今の目標や今後の進路について

米国での留学を終えた後の私の新たな目標は、トップクラスの大学や企業との学びや交流を通じて得た知識と経験に基づいて、リーダーシップスキルをさらに磨くことです。私が目指す方向は、グローバルな視点とチームワークの重要性を理解し、メンバーの一人一人の意見をより創造的なアイデアに進化させられるリーダーの役割を担うことです。また、異文化理解を重視しており、異なる環境で学び、視野を広げるためにもう一度留学したいと考えています。この新たな海外での経験を通じて、多様性を受け入れ、未知の課題に果敢に挑戦することで、自分自身の成長を実現していきたいと思います。

5 帰国後の活動

アメリカ留学の魅力を広めるために、ソーシャルメディアを活用してリアルで具体的な留学体験をシェアしています。異文化や習慣を体験し成長した写真やストーリーをシェアすることで、フォロワーや友人に留学の魅力を伝えていきたいです。留学に興味のある方との交流を目的とした方との話し合いの場を催したいと考えています。これらの活動を通じて、留学がもたらす多様な価値観や学びの知識を共有し、留学に興味のある人が安心して情報を得られる場を提供します。留学の素晴らしさを体験した瞬間を共有することで、より多くの人に留学や国際社会で活躍する可能性をより深く感じてもらうことが私の目標です。

ハーバード大学生との食事

ホームステイ　ホストマザーと

伊那北高校
2年
鈴木（すずき）　涼（りょう）

いつか世界を変える僕たちは

1 参加前の自分と、帰国後の自分の変化について

私が実感する変化は主に三つです。一つ目は、自分の意見を伝えられるようになったことです。参加前は、周りの人に合わせるために自分が本当に思っていることを伝えることができないということがありました。しかし、訪問先やホームステイなどで意思表示が必要となる場面がたくさんあり、その時に得た力は今の生活で自信につながっています。二つ目は、学び対する意識の変化です。これまでの私には、勉強は自分の進路のためという意識がありました。しかし、MIT やハーバード大学を訪れた際、学生の学びに対する切実な態度を見て、新しいことを知り、追求することがどれだけ楽しく、自分のためになるのかを感じさせられ、今は学びを自らつかみに行こうとする態度が身についたと感じています。三つ目は、世界で起こっている問題に対してより興味関心を持つようになったことです。アメリカは、私が想像していた以上に研究やテクノロジーなどあらゆる面で優れた国でした。その反面、ホームレスなどの深刻な問題も目にし、世界で起こっている問題についてもっと知り、国の壁を越えて、解決していくことが何より大切だと再認識しました。

2 アメリカ（ボストン）に対する理解や印象について

アメリカを訪れて私が感じた印象は「人の多様性」です。街を歩いていてすれ違う人は白人であったり、黒人であったり…と、留学前まで海外では " 黒人差別 " や " アジアンヘイト " などの人種問題が起こっていると思っていた私にとってとても驚きでした。また、見学先の大学や研究施設では、そういった人種の異なる人々がともに切磋琢磨して、様々なことに取り組んでいる様子を目にしました。たとえ肌の色、話す言語、ましてや年齢、性別が違っていても、一人ひとりの " ひと " が生き生きとしている様子に私は感動しました。また、多様性についての理解が世界に比べて遅れている日本にとって、学ぶべきことはたくさんあると感じました。

3 大学・企業訪問やホストファミリーとの交流等から学んだこと

学び、憧れ、そして自分のものにしたいと思ったことがたくさんありました。特に仕事や研究の環境と、人との向き合い方についてです。CIC という企業ではコワーキングスペースを提供しており、現在約 600 の会社がオフィスを利用しています。同じ環境で仕事をすることで会社を越えてアイデアの交換ができ、互いの利益になるというとても画期的なシステムであり、私たちの生活の中でもこういったアイデア交換の場は非常に重要だと感じました。人との向き合い方について私が学んだことは、人を否定しないことです。ハーバードメディカルスクールでバイオミメティクスについて自分たちのアイデアを大学の教授と生徒の前で発表する機会がありました。発表後、教授や生徒は私たちの考えたアイデアがたとえ非現実的であっても、決して私たちを否定することなく、良い点や自分なりのアドバイスを伝えてくれたことがとても印象的でした。

4 今の目標や今後の進路について

私には環境問題に苦しむ動物を救いたいという大きな目標があります。動物に対する考え方は国によって様々です。日本についてはもちろん、ほかの国の動物に対する価値観や現在起こっている問題などついてさらに見識を高めていきたいです。そして将来は日本と世界をつなぐ架け橋となり、一つでも多くの動物の命を救いたいです。アメリカでの留学を通して得た経験や、英語がうまく話せなった悔しさなどを糧にして、これからも努力していきたいと思います。また、今回のこの留学は自分が応募しなければ実現しなかったことなので、これからも様々なことに挑戦し続けたいです。

5 帰国後の活動

現時点では、自分が通う高校で活動報告を行う予定です。その後は学校や世代関係なく、アメリカで目の当たりにした最先端の技術や、日本に対して思った疑問などについて共有し、ともに意見を交わす機会を作りたいです。また海外で学びたくても家庭の負担が大きいことから留学を拒む生徒がいることを受けて、留学支援を募るプロジェクトを立ち上げ、現在も活動を行っています。

ホストマザーと

いつかこんなところで研究したい
（ハーバードメディカルスクールにて）

松本県ケ丘高校
1年
工藤（くどう）　類（るい）

異文化体験とコミュニケーション

1 参加前の自分と、帰国後の自分の変化について

参加前、私は外国に行ったことがなく、どんなものか分からず不安でいっぱいだった。また、内容が自分の興味のあるものでも、話が難しくて理解ができないのではないかという気持ちも大きかった。自分の英語の会話スキルにも自信がなく、言いたいことが伝わらないのではないか、聞き取れなかったらどうしようと思っていた。

しかし、実際に行ってみると相手が理解しようとしてくれるので思ったよりかなり伝わり、理解もできて、なんとかなった。私の言ったことが分かってもらえたのは英語で会話する際の大きな自信につながった。また、家族や友人、先生にたくさん助けられたので感謝の気持ちがより強まった。

2 アメリカ（ボストン）に対する理解や印象について

事前学習会の前、このプロジェクトに参加することを決めた当初は中学校の英語の教科書のキャラクターの出身地ということ、野球が有名なこと、港にお茶を投げ込んだ歴史があることぐらいしか知らなかったが、事前学習会があり、学生が多い教育に力を入れた都市であることを知り、初めて研究が盛んな都市だということを認識した。実際に行ってみると、街中で多くの学生の方を見かけるし、街自体も綺麗だった。文化的な面では、アメリカの中で一番長い歴史を持っていると言われる都市といわれるだけあって、いろんなところに銅像や古そうな建物があった。また、日本よりも国旗を掲揚している家が多く、文化の違いを目に見えて感じた。今回行った時期がたまたまハロウィーンの期間だったので、日本のものより大きな飾り付けが多くの家でされているのも見ることができた。

3 大学・企業訪問やホストファミリーとの交流等から学んだこと

今回の研修で多くの方が「チャレンジ」することが大切だと言っていて、勇気を出して何でもやってみること、失敗が全ての終わりではないことを学んだ。また、数年後の未来を見据えて研究している方がほとんどで、その目標のために確かに軸をもって研究されていて、私も日々目標を見失わずに正しい方向への努力をしたいと感じた。

ホストファミリーからは、自分に自信を持つことが大切だと聞いた。例えば、電車は初めに乗るのが大変で、どれに乗ればいいか分からなかったのが、最終的に問題なく乗れるようになったことから、電車に乗ることに自信がついた、ということになり、ほかのことも同じように出来るまでやれば自信がつき、自分に自信を持って生活できるということを学んだ。

4 今の目標や今後の進路について

今回の研修を通して、工学の面白さをより認識した。工学といえば機械工学のイメージが大きかったが、生物工学の研究の話を聞かせていただいたことで研究が深くなればなるほど興味が湧いてくるような気持ちになった。何より研究者の人たちが楽しんでいるのをとても感じて、私も何か研究をしてみたいという気持ちになった。今回はマテリアルに関する研究の話を聞く機会が多かったが、工学の他の分野についても調べてみようと思った。また、私は元々工学系に興味があり、何かの研究をしたいと考えていたが、今回の研修でさらにその気持ちが強くなった。

5 帰国後の活動

私はこの留学でいかに自分が固定観念にとらわれていたかが分かった。自分の予想とは全く異なる世界で過ごすことは驚きと発見の連続であった。自分の普段生活しているところから離れて全く知らない土地を訪れることは多様な文化を受け入れたり、自分を見直す機会となるので、SNS などを通して、広くたくさんの人にそのことを伝えたり、行動するきっかけとなりたい。

ホストマザーとの別れ

ダウンタウンの夜景

松本深志高校
1年
荻原（おぎはら）　友理奈（ゆりな）

世界で学ぶって最高！

1 参加前の自分と、帰国後の自分の変化について

私はずっと前から海外に行ってみたくて、憧れがありました。でもなかなか機会がなく、ただ漠然と毎日過ごしていました。そんな時にこのプロジェクトを見つけてすぐに応募しました。そして、私は自分を変えるためにアメリカに行きました。アメリカは日本とは全く違う世界で、想像していないものがたくさんありました。今回の経験を通して様々な素晴らしい出会いがあり、たくさんの話を聞いて、自分のこれからがすごく楽しみになりました。自分の視野が広がって、「自分の知らないところではこんな面白いことをやっている人がいるんだ！」と強く影響を受けました。一歩踏み出したことで今までできなかった新しい経験ができて、本当に行って良かったと思える留学になりました。

2 アメリカ（ボストン）に対する理解や印象について

今回初めてアメリカに行ってみて、アメリカには様々な人がいて、まさに多様性（ダイバーシティ）の国だということを本当に体感しました。街を歩けば色々な人種・国籍の人がいて、外見もそれぞれ違えば、価値観も全く違いました。日本とは何もかも違います。でも、みんな「自分の個性」が尊重されていました。自分だけのブレない軸を持って、周りの目を気にしないで好きなように生きて、自分らしくあることができる場所でした。また、ボストンは特に景色が最高です。ボストン郊外は綺麗な自然に囲まれていて、秋の紅葉や可愛い野生動物も見ることができました。中心部は大きなビルや大学が立ち並んで、とても栄えています。どこを撮っても写真が映えるので、見ていて飽きない素敵な街でした。強いて良くないところを上げるとしたら、街中の甘すぎる香水の匂いは忘れられないです…。

3 大学・企業訪問やホストファミリーとの交流等から学んだこと

今回学んだ中で全てに共通していたことは、ハーバード大・MIT の学生や教授・企業の方は、今自分がやっていることを心の底から楽しんで、学んだり研究したりすることに情熱を持って突き詰めていたことです。だから、自分もその人たちにように熱意や誇りを持ってやることが大切だと学びました。さらに、研究などをしている人は自分の興味がある学問や専門分野の奥深くまで勉強しており、未来の世界がさらに良くなるように今ある問題を研究していました。新しいものを見つけた時が一番楽しい反面、その裏には尋常じゃない努力と試行錯誤の積み重ねがあることを学びました。でも、今回世界の最先端の技術や研究内容を学んでみて、「勉強するってすごく面白い！」と思いました。普段私たちが勉強していることには全て意味があって未来に繋がるとしたら、もっと頑張って絶対に妥協せず上を目指していきたいと思いました。

ホストファミリーとの生活は一言で言えば「最高」です。まるで本当の家族かのように接してくれて、いろんな場所に連れて行ってくれて話すことがとても楽しかったです。言語の壁なんて気にせず積極的にコミュニケーションをとることで心の距離がぐんと近くなりました。こんな楽しくて面白い家族と会えたことが一番の喜びでした。

4 今の目標や今後の進路について

今後も英語の勉強は続けていき、英検準 1 級を取得してさらに語彙力や会話力を磨いていきたいと思います。そして今回様々な経験を通して、研究や起業のように一つのことを突き詰めて新しいことを見つけていくことや、世界基準の悩みや問題を解決することを自分もやりたいと強く感じました。また、理系分野の中で特に生物学や医学などの進歩よって人々の生活がより豊かになっていることに興味が湧き、とても面白いと思ったので、さらにその勉強に力を入れていこうと思いました。そして私の夢はグローバルに活躍する女性起業家になることです。今回留学をしてみて、海外に比べて日本は特に男女格差が大きいと感じました。そこで、ジェンダーや格差の問題にも目を向けて解決していきたいと考えています。今後は、英語はもちろん、専門的な知識の勉強を続け、自分の本当にやりたいことに向かって突き進んでいきたいと思います。そして、世界に貢献し、自分や周りの人の心を豊かにして、今よりももっと幸せになれる人を増やしていきたいと思っています。

5 帰国後の活動

クラスのみんなの前で、留学の感想や面白さを伝えるために発表をする予定です。発表を聞いてくれた人が「自分も留学に行きたい！」と思ってくれたら良いなと思います。

インスタグラムの個人アカウントでは、身の回りの友達や県内の高校生に向けて留学の様子や街並みや景色を写真や動画にして、研修中の楽しさを伝えることができました。また、インスタのビジネスアカウントでは県外の人や学生以外の大人にも発信をすることができました。

バイオミメティクスの新たなアイデアのプレゼンテーション

ハーバード大学の大きな正門前

松本深志高校
1年
亀田（かめた）　真麻（まあさ）

私のアメリカ留学　～未知の世界に足を踏み入れて～

1 参加前の自分と、帰国後の自分の変化について

もともと「海外に行ってみたい」という漠然ながらも強い思いがありましたが、なかなか海外に行くチャンスがなくて、これまで一度も日本から出たことがありませんでした。私にとって外国は夢のまた夢で、今回行けることが決まった時も本当に行けるのかと実感が湧かなかったです。しかし実際に現地に着いて、ずっと夢見ていた憧れの景色を目の当たりにしたときに、ようやく海外に今いるんだと実感しました。このときの感動は忘れられません。アメリカでの７日間は驚きの連続で、１日１日はとても濃い内容であっという間でした。帰国後急に現実に引き戻されて、また時間に追われる忙しい生活が待っているのかと思うと正直辛かったです。

この留学を通して、私は自分の未熟さに気づくことができました。以前は、自分はできるという自信があったのですが、アメリカに行ってもっともっと努力してトップを目指している人もいることを知ったとき、自分の努力は全く足りていないと感じました。この気づきは、ここに行かなければなかったと思いますし、私にとって大きな刺激となりました。そして、以前よりすべてのことにまずは全力で取り組もう、失敗しても恥じずにトライしてみようと思えるようになりました。

2 アメリカ（ボストン）に対する理解や印象について

アメリカは、私が想像していたところよりはるかに良いところでした。テレビやニュースでよく見るアメリカは、治安が悪く日本とは違って拳銃を持つのが許されているから少し怖い印象でした。しかし、少なくとも私が訪れたボストンは日本と同じくらい治安が良く、現地の人も多種多様でとても良い町でした。そうは言っても日本と同じようには暮らせません。

７日間、特に辛かったのはホームステイでの生活様式の違いです。「風呂無し」「シャワー 10 分」「全部屋土足」で、「白米が食べられない」「食事の量が多い」など、純ジャパニーズの私には慣れないことが多く戸惑いました。人々は優しく、白人・黒人・アジア人など様々な人種が共存しており、英語ではない知らない言語が飛び交うバス内がとても印象的でした。７日間しか滞在できなかったので、正直すべてを理解することはできませんでしたが、この経験で幅広い視野で社会を見られるようになりました。

3 大学・企業訪問やホストファミリーとの交流等から学んだこと

ハーバード大や MIT など超有名な大学に行けたことがまずうれしかったです。大学も企業訪問もすべてハイレベルで、私にはここまでの力は及ばないなと思いましたが、そこでの学びはとても多かったです。共通して言えることは、どの学生・研究者も学ぶことを心から楽しいと感じていることでした。勉強して新たなことを発見したり、知識を得ることに楽しさを見出し、インプットだけでなくアウトプットをする。日本の学生は宿題をしなければ、というマストという形でしか勉強をしていないので、改善していくべきだと思いました。そして私もそのうちの１人で、何のために勉強するのか分からず、ただ出された課題に追われていたので、これは私にとっても大きな衝撃でしたし、自分の勉強に対する姿勢について考えるきっかけにもなりました。

ホームステイはオールイングリッシュだったので、英会話のチャンスをすごく楽しみにしていました。しかし行ってみると全く会話が成立しなくて、自分の英語力のなさに失望しました。ここでの学びは、コミュニケーションは語学力も大切だけど、どれだけ相手との深い信頼関係を築けるかも重要だということです。英語はダメダメでしたが、ホストマザーの言ったことに大きくリアクションしたり、片言でも質問して分からなかったら素直に分からないと言って心の距離を縮めたりすることがコミュニケーションにおいて必要不可欠だと実感させられました。

4 今の目標や今後の進路について

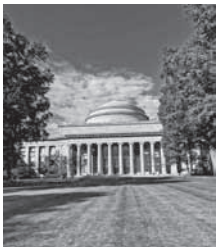
第一に今の達成したい目標は、英語を難なく話せるようになることです。アメリカでの１週間はもちろん英語だったので、英語が不完全だった私はコミュニケーションをとるのにとても苦労しました。この苦い経験から、ただ英単語や文法が理解できるだけでは使いものにならないと感じました。

帰国後は初めて英会話カフェに行ったり、オンラインで全世界の人とお話しができる episoolen というアプリを使い、日々英語を使うことに取り組んでいます。将来は日本と海外をつなぐ仕事に就きたいと思っています。これも以前とは考え方が大きく変わりました。以前は海外に住んで働きたいと思っていましたが、この留学を通して、日本に住んで海外に頻繁にいくという選択にも惹かれました。卒業したら大学で１年間留学をして、世界にもっと飛び立って未知の体験をしたいですが、日本の魅力も日本人として伝えられるように勉強したいと考えています。

5 帰国後の活動

インスタグラムでの活動内容の発信を続けていきたいです。学校での報告会もそうですが、より多くの人に知ってもらうために、イオンモールなどの公共施設でも発表してみたいと思っています。つばさプロジェクトでマレーシアやカンボジアに行く人たちにも今回の１週間を通してアドバイスできると思うので、報告だけでなく、サポートにもなるような発表をしたいです。

朝のボストンのきれいな街並み


MIT キャンパスツアーで撮った図書館

松本深志高校
2年
宮越（みやこし）　南央（なお）

視野を広げて世界を知ること

1 参加前の自分と、帰国後の自分の変化について

今回の留学が私に与えてくれた変化は、自分の考えや物事の捉え方など沢山ありますが、その中でも特に自分が変化したと実感するのは内面です。私は比較的シャイな性格で、自分の思いを他人に伝えるのが苦手でした。しかし、アメリカでは相手が自分の思いを汲み取ってくれるのを待っているだけでは何も始まらないということを、身をもって実感しました。そのため、自分の思いを積極的に相手に伝えようと奮闘する日々を過ごしているうちに、徐々に自分の意見をはっきり言えるようになってきて、日本に戻ってきた頃には完全に自分の思いを積極的に人に伝えることができるようになっていました。今回の留学で学んだことや色々な人との出会い、またアメリカ留学を終えたという事実、そういったことが自信に繋がったのだと思います。

2 アメリカ（ボストン）に対する理解や印象について

アメリカには、これまで銃や薬が合法であったり日本と比べると治安が悪かったりと、かなり怖いイメージがありました。しかし、アメリカを訪れてみると言語の壁を越えて親切にしてくれる人達に沢山出会うことができ、実際に自分の目で見ることの大切さを知りました。

ボストンは、歴史的建造物と現代的なビルが見事に調和していて、近代においてアメリカが発展した様子や歴史を感じられる素晴らしい都市でした。また街全体で学業（若者の育成）や企業の発展・新たな研究などに力を入れていて、日本でもこの都市のような体制がとられればいいなと思いました。

3 大学・企業訪問やホストファミリーとの交流等から学んだこと

とにかく大まかな基礎知識から専門的な話まで様々な分野のことを学ぶことができ、お話をして下さった大学生や研究者の方々はみな、自分という人物をしっかり確立していて物事を達観していました。その他にも未来を見据えて行動をし、世界を変えようと自分のやっていることに自信をもっている姿には、とにかく圧倒されました。企業を見学させていただいた際には、日本の典型的な会社のイメージが完全に壊されました。今回訪れた会社はとにかく雰囲気がアメリカらしい自由な感じで、秘密基地のような休憩室だったり、チェスだったりと色々な物があり、会社で働く人々はそこでオンオフをしっかり切り替えていました。

今回の留学での交流や見学から、自分の視野の狭さを改めて認識しました。また、日本から出て海外のことを知ることで改めて日本に不足していることや問題・課題を見つけることができ、とても貴重な経験となりました。

4 今の目標や今後の進路について

今の自分の目標は、もっと自分の英語力をのばして大人になって働くとなったとき、その英語力を活かして日本にとどまらず世界で活躍できる人間になることです。進路については、アメリカに行くまでどのような基準で大学を決めていいのか、また希望の大学に行くためにはどうすればいいのかなど悩みを抱えていました。しかし、海外で働く経験豊かな大人達に進路についての質問ができたことで、自分の中での大学を決める上で大事にしたいというものを見つけることができ、将来の夢についてもやもやとしていたものの輪郭が少しはっきりしてきました。

5 帰国後の活動

今回撮った写真を用いてスライドを作り、多くの人に今回の留学で得た知見を伝えられるような発表ができる機会を是非設けたいです。また、SNS なども活用して発信していきたいと考えています。例えば、Instagram でこれまであげてきたストーリーをハイライトにして誰でもいつでも見られるようにしたり、写真に文字を添えて投稿したりするなどです。（ネットで発信する場合には、誤った知識を投稿してしまわないように留学メンバー達としっかり話し合ったうえで投稿していくつもりです。）

ハーバード大学での学び

初めてのアメリカの電車に興奮